

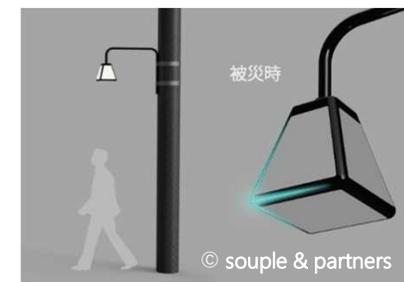
公募申請1：公共空間デザインコンセプト ZONE

提案団体	社会実験ユニットsouple & パートナーズ		
道路の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の交通標識や注意喚起では、『見えてるけど見ていない』状況となり、交通事故が発生してしまうケースがある。 ・事故やトラブルが同一エリアで発生するなど、歩行者やドライバーの心理的なストレスとなっている。 		
解決策 (アイデア)	<ul style="list-style-type: none"> ・路面や公共空間に、価値創造型ユニバーサルデザイン（路面デザイン舗装、センサー、照明機器、照明素材、ハイテク塗料等）を施工。歩行者や公共交通利用者、ドライバーの自発的な行動変容のきっかけを作る、新しいインフラを構築する。 		
効果	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的ストレスを減らすだけでなく、空間自体の好感度も上がり、エリアの価値も高める。 	道路政策ビジョンとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ③交通事故ゼロ ④行きたくなる、居たくなる道路
実績等	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプト検証として、歩行者をエスコートする照明屋外実験を実施。被験者の認識率100%。好感度93%という結果に。 ・本コンセプトに複数企業が賛同。実用化に向けて、課題の検証ならびに、さまざまなツールでの社会実験を企画・検討中。 		
希望実施地域	<ul style="list-style-type: none"> ・全国で対応可能 		

提案のイメージ



電気不要のハイテク塗料で
快適性・治安向上を図る
夜間遊歩道デザイン



災害時、避難指示灯に
変身するスマート街路灯



児童がはみ出さずに
歩きたくなる通学路



交差点や踏切での歩きスマホを
抑制する埋め込みLEDデザイン

2020年 歩行者誘導システムの社会実験の状況

横浜国立大学とお茶の水女子大学、特定非営利活動法人365ブンノイチと共同で、映像照射により夜間の歩行者への注意喚起と飛び出し抑止を図る実験を実施（特許取得済）。上記の結果となっております。